

2021年度 東京未来大学 福祉保育職調査報告

第1章 調査概要

- 調査目的：主に基礎力の視点から、卒業生の輩出先である幼稚園・保育園・福祉施設が求める能力並びに卒業生の印象を明らかにする
- 調査対象：東京未来大学の卒業生採用実績のある幼稚園・保育園・福祉施設
- 調査方法：回答依頼文章を封書にて送付。Web/FAXで回答
- 調査期間：2021年5月7日～2021年6月1日
- 発送数：427施設
- 集計対象数：135施設
- 回収率：31.6%

第2章 調査結果サマリー

(1)必要度

21項目中の能力や態度について、それぞれ新卒段階での必要度の回答を、とても必要：5点、ある程度必要：4点、必要：3点、あまり必要でない：2点、全く必要ではない：1点、として加重平均値を算出。この平均値の上位3項目は、大学卒業までに優先的に育成・教育が必要な力と思われる。

「上位3項目」

- 11.誰に対しても和やかに接し、相手（同僚や保護者等）の話を真剣に聞くことができる
- 17.責任感を持ってやり遂げることができる
- 19.主体的に学び続けることができる

■ 必要度（業種別）



(2) 卒業生の評価

21 項目の能力や態度について、卒業生が現場でどの程度活かしているかの回答を、よく活かしている：4 点、ある程度活かしている：3 点、あまり活かしていない：2 点、全く活かしていない：1 点、として加重平均値を算出。

《上位 3 項目》→卒業生が評価されている部分

- 11.誰に対しても和やかに接し、相手（同僚や保護者等）の話を真剣に聞くことができる
- 17.責任感を持ってやり遂げることができる
- 2.安心・安全な快適で過ごしやすい豊かな保育環境づくりができる

《下位 3 項目》→今後、教育・育成に強化が必要と思われる部分

- 20.様々な角度から情報を収集・分析し、課題を発見することができる
- 12.相手（同僚や保護者等）の状況に応じて、適切なアドバイスができる
- 21.獲得した知識・技能を活用し、課題解決の実践ができる

■ 卒業生の評価（業種別）



(3) ポートフォリオ分析(必要度×卒業生評価)

縦軸を「必要度」、横軸を「卒業生評価」とし、ポートフォリオ分析を行い、本学卒業生の強み・課題の分析を行った。

■ 必要度：新規大卒者に求める能力や態度

とても必要：5 点、ある程度必要：4 点、必要：3 点、あまり必要でない：2 点、全く必要ではない：1 点として加重平均値を算出。（無回答は除く）

■ 卒業生評価：卒業生の印象（※卒業生の就業実績がある企業のみ対象）

よく活かしている：4 点、ある程度活かしている：3 点、あまり活かしていない：2 点、全く活かしていない：1 点として加重平均値を算出。（わからない、無回答は除く）

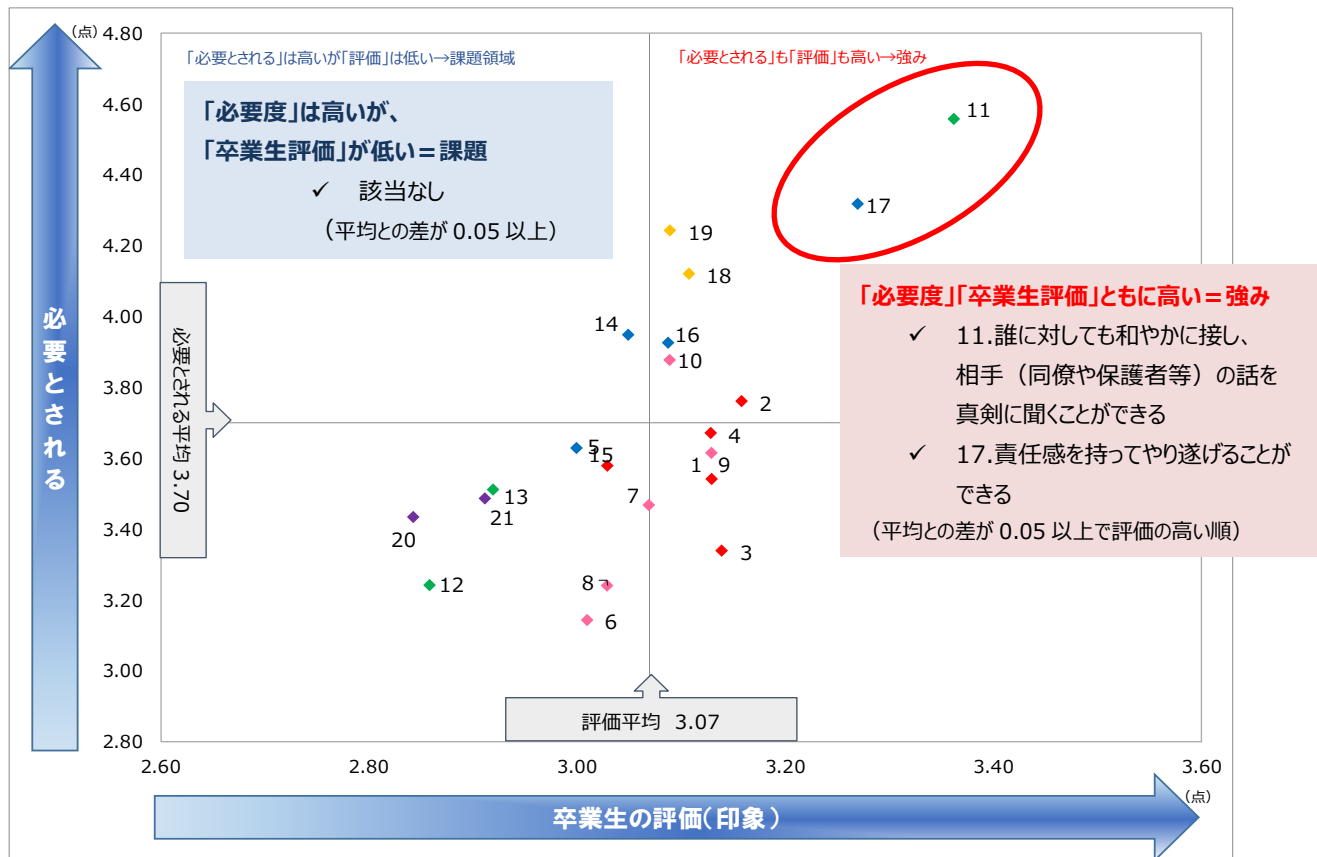
保育・授業場面で活かせる力	1.園全体がめざす目的(方針)に基づいた計画の中で自分の役割を担うことができる
	2.安心・安全な快適で過ごしやすい豊かな保育環境づくりができる
	3.担当クラス・担当部門の運営をスムーズに行うことができる
	4.子ども(利用児/利用者)の行動を理解し、適切に対応することができる
	5.子ども(利用児/利用者)の成長・発達に応じた、客観的な判断・対応ができる
園所内・校内業務および園所外・校外で活かせる力	6.園全体がめざす目的に基づいた指導計画が作成できる
	7.子ども(利用児/利用者)から得られた多様な情報のもつ意味について考えることができる
	8.子ども(利用児/利用者)にとって適切な教材が提供できる
	9.子ども(利用児/利用者)の状態・事実に基づいた記録ができる
	10.園内・園外の人たちと連携・協同することができる
コミュニケーションの力、協働する力	11.誰に対しても和やかに接し、相手(同僚や保護者等)の話を真剣に聞くことができる
	12.相手(同僚や保護者等)の状況に応じて、適切なアドバイスができる
	13.相手(同僚や保護者等)の立場を考慮しながら、意見調整を進めることができる
自己統制(セルフコントロール)力	14.プレッシャーやストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる
	15.自分の長所・短所を的確に把握し、強みを活かすべく行動できる
	16.難しい課題や未経験のことにも、前向きに臆せず取り組むことができる
常に学び、向上を続ける態度(生涯学習力)	17.責任感を持ってやり遂げることができる
	18.自発的に行動できる
課題を解決する力	19.主体的に学び続けることができる
	20.様々な角度から情報を収集・分析し、課題を発見することができる
	21.獲得した知識・技能を活用し、課題解決の実践ができる

■全体

必要度：N=135

評価：N=109

*ただし無回答は除く



【総括】

今回の調査により、本学卒業生が評価されている能力・態度について確認することができた。今後、これらの能力・態度が、大学時代のどのような経験・学修を通じて身につけているのか、在学生アンケート・インタビュー等を通じて、明らかにしていきたい。

今後も「技能と心の調和」の教育理念の実現のために、継続してステイクホルダー（卒業生、卒業生受け入れ先、保護者など）の評価を調査し、教育改善に活用していきたい。